

テレビ放送との連携で 携帯電話ビジネス一変

2003年末の地上波デジタル開始を機に、携帯電話とテレビをつなぐさまざまなプラットフォームが登場。携帯電話とテレビ放送との連携のあり方がいよいよ見えてきた。

マスメディアである地上波テレビ放送と、パーソナルメディアである携帯電話の連携が始まる。

今後の携帯電話ビジネスでは「放送との連携」がカギを握ると見られ、多くのベンダーが参入し始めている。放送事業者が出資を行っている携帯電話コンテンツベンダーのインデックスとサイバードでは、携帯電話とテレビの連携を図るコンテンツやプラットフォームを開発した。

地上波アナログテレビでは、ポータフォンからチューナー搭載の携帯電話が登場し話題を呼んでいる。これは携帯電話にテレビを取り

付けたもので特に機能やサービス面で連携するわけではないが、「将来に備え、テレビ搭載携帯電話の開発は、放送コンテンツのノウハウを蓄積するという狙いもあった」と、開発を手がけたNECモバイルターミナル事業本部折笠裕己モバイルターミナル営業本部長は話している。

むろん、携帯電話事業者では、テレビ放送をどのように組み合わせ、お互いのメリットをどうやって生み出していくのか検討を始めている。

ここでは、携帯電話とテレビ放送とはどのような連携があるのか、またどのような相乗効果が期待できるのか、放送事業者、携帯電話事業者を中心にした取り組みを紹介すること

で、今後のビジネスのあり方を探ってみる。

携帯とテレビ連携で2つのモデル

まず、携帯電話とテレビではどのような連携があり得るのだろうか。現在検討がなされている形態として 固定テレビと携帯電話の連携、 テレビを携帯電話に内蔵するの2タイプがある。それぞれについて見ていく。

とは、家庭で見るテレビ受像機と携帯電話を赤外線やインターネットを使って接続し、番組情報提供などで連携を図るというものだ。

テレビ番組などでインターネットのURLを表示させ、関連の詳細情報を見せるケースがよくあるが、実際



テレビ朝日事業局
デジタルコンテンツセンター
岡田 淳
プランニング・プロデューサー



インデックスの
メディア開発室
山本 博室長

にその文字列を見てインターネットに接続することは結構面倒で、多くのユーザーにとっては使い勝手が悪く、ユーザーがほしい情報をプル型で提供するのはなかなか難しいという事情がある。

本来、テレビは、ソファなどに座ってリラックスして見るというスタイルのため、大量の情報を視聴者に見せるプッシュ型メディアである。一方、携帯電話は、手元で操作し自分がほしいと思った情報を入手するのに効果を発揮するもので、極めてパーソナルなプル型メディアである。つまり、両者は特性が大きく異なり、携帯電話とテレビを組み合わせることでお互い得意とする部分を引き出し相乗効果を生み出せるのである。

ただし、両者の相性のよさは、放送事業者がインターネット、モバイルサイトへの取り組みを行ってきた中で、ようやく分かってきたことなのである。もともと放送事業者にとって、

図1 携帯電話と放送との連携形態

	別々のTV 受信機と携帯電話を組み合わせる	携帯電話にTV チューナーを内蔵する
テレビとしての快適性	長時間視聴に向く	長時間視聴には向かない
モビリティ	x テレビのそばで利用する	どこでもテレビを閲覧できる
タイミングをのがさずにテレビを見る		メールなどと組み合わせるとタイミングよくテレビを見せる
携帯電話メール、電話との連動		メールで連絡し、友人にテレビを見せるという方法も

携帯電話を含めた他のメディアの存在はプラスには考えていなかったからだ。例えば、携帯電話利用とテレビ視聴の競合として、放送事業者の間で取りざたされていたいわゆる“ダブルスクリーン問題”がある。

広告収入によって無料放送を行う民間放送事業者では、テレビを見ながらCM時になるとテレビを見ないで携帯電話メールを使う視聴者が増えることが悩みの種であったという。

テレビ朝日事業局デジタルコンテンツセンター岡田淳プランニング・プロデューサーは、「CMを見ないでテレビを見るのは、広告をベースにした放送事業を行ううえでは非常に悩ましいこと。視聴者には、無料でテレビを見られる代わりに、広告もしっかり見なければならぬとぜひ考えてほしい」という。CMを視聴者に

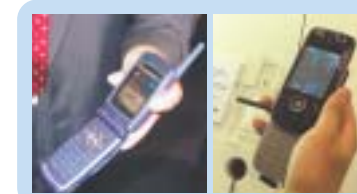
見てもらうという観点では、放送事業者にとって、テレビ視聴者が携帯電話を使うことは好ましいことではなかったのだ。

これまで多くの放送事業者は、ダブルスクリーン問題の解決策としては、視聴者にテレビ以外のことを忘れさせるぐらい面白い番組をいかに制作するかという従来からのアプローチをとっていた。しかし、最近では、視聴者の携帯電話メールの利用を抑えることは事実上不可能だと認識し始めており、携帯電話はテレビを補完するものとして積極的に活用しようという方向に論点が移ってきたという。

これは、携帯電話側で、テレビ番組に関する詳細情報を配信したり、クイズやアンケートなど視聴参加型の番組にも携帯電話を活用しようと



ポータフォンのテレビチューナー内蔵
携帯電話「V601N」



地上波デジタルチューナー内蔵
携帯電話の試作機
NEC製(左)、三洋電機製(右)